

ご自由にお持ち帰りください。

生涯学習

とっとり

鳥取県教育委員会発行
2015.11 霜月

161

鳥取県内の生涯学習講座が満載!

ページ
1 ★特集

障がい者の社会参加と心の 温かい地域づくりを目指して

人形劇団いとぐるま

- 3 ★ 子ども見守り活動
アイラブ西郷
- 4 ★ とっとり県民カレッジ
● 11・12月講座情報（連携講座）
- 26 ★ 連携講座 おすすめピックアップ
● 多文化共生まちづくりフォーラム
● 来て!見て!!さわって!!!とっとり発掘速報展
- 27 ★ お知らせ
● 鳥取県立生涯学習センター（県民ふれあい会館）
- 29 ★ とっとり自然環境館へ行ってみよう!
- 30 ★ ● 第35回近畿高等学校総合文化祭鳥取大会の開幕迫る!
● とっとり県民カレッジで熱心に学ばれた皆さんをご紹介します
- 31 ★ ご案内
● 社会人経験のある方、大学でさらに学びませんか



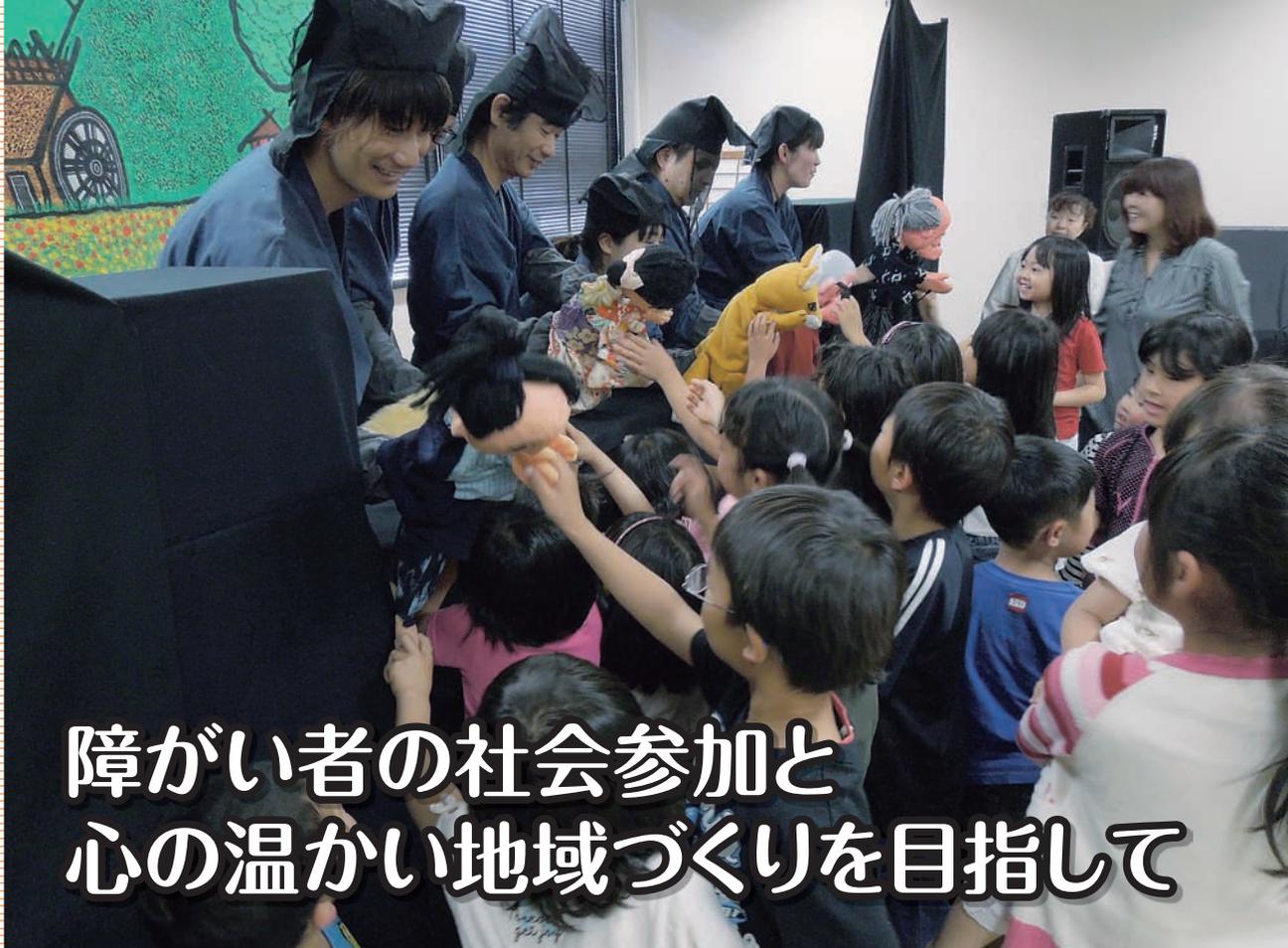
『切り絵シリーズ』 ナナカマドと大山の冠雪（大山町）

様々な表情を見せる秀峰・大山

真っ赤に色付いたナナカマドの間から、真っ白な雪山の頂上を覗かせています。

絵・文：紙原 四郎氏

人形劇団いとぐるま



障がい者の社会参加と心の温かい地域づくりを目指して

障がい者の福祉増進と交流を目的とした米子市心身障害者福祉センターを拠点に、障がい者と健常者がいっしょになって演じる人形劇団があると聞いて取材に行ってきました。「人形劇団いとぐるま」代表の小磯さんにお話をうかがいました。

人形劇団いとぐるま

代表 こいそ やすひろ 小磯 保弘 さん



障がい者が自ら表現できる人形劇スタート！

1981年に「国際障害者年」啓発キャラバン隊として、障がい者とともに、テーマである「完全参加と平等」を訴えながら、県内をくまなく回りました。障がい者と一緒に行動したことで理解が深まり、大変感動的な2日間となりました。

私の身近にも障がい者がいますが、そのころ障がい者というと社会から隔離されているというイメージがありました。しかし、このキャラバン隊や他のボランティア活動をとおして、障がい者は何もできないのではない。障がい者が受け身ではなく、自ら表現ができるようになれば変われるのではないかと思うようになりました。

1983年、皆生に米子市心身障害者福祉センターが開館しました。私も運営委員としてセンターの立ち上げに関わることになりました。障がい者のボランティアの世話役をしていたこともあり、センターの自主講座として目玉になるようなことはできないかと相談を受けました。キャラバン隊での想いを形にできるチャンスだと考え、私が以前から取り組んでいた人形劇を提案しました。願いがかない、1985年に障がい者の自立支援を目的としたセンター自主講座「人形劇講座」がスタートしました。私はその時からずっと講師として携わっています。

想いを込めて全て手作り

人形劇の講座は、毎週1回で1回2時間開催。公演ができる日を楽しみに、劇団名を「人形劇団いとぐるま」と名付けました。人形劇をするには、人形、舞台装置、脚本等が必要ですが、できるだけ障がい者と一緒で作りたいという想いがあり、全て手作りしました。「あーでもない。こーでもない」と言いながら進めていきますが、2時間で人形の足を1本作ったら終わりという日もありました。(笑)

練習も大変です。みなさん最初は恥ずかしがったり、「私たちは見世物じゃない」と抵抗される方もありました。それと、いろいろな障がい者がおられるので、例えば、視覚障がい者が正面の位置を把握できなかったり、ぶつかったり、聴覚障がい者とのコミュニケーションがなかなか取れなかったりして何度も泣きました。いろいろな障がい解消の工夫をしたり、「大丈夫だから、大丈夫だから」と励まして、かたくなな心をほぐしていきました。

初公演での最優秀賞は大きな自信へ

劇団を始めて3年。やっと準備が整って、1988年に初公演を迎えました。舞台は米子市児童文化センター開館5周年記念事業「人形劇フェスティバルゆめっこ祭り」で、演目はオリジナル脚本の「人形峠のばけぐも」です。とても緊張しました。観客に子どもたちがたくさん入っていて、純粋に楽しんでくれているのが伝わり感激しました。この時、信じられないことに最優秀賞をもらったのです。

それまで半信半疑だった障がい者のメンバーは、それをきっかけに意識が一気に変わりました。表情が誇らしげになりました。変えてくれたのは観客の拍手、笑顔、声援、そして受賞です。そのときのメンバーはみんな自信を持って劇団を卒業され、職業に就いたり結婚されたりして自立されました。

平成5年には、大阪の枚方市で行われる全国のプロ・アマの人形劇団が集まる「ひらかた人形劇フェスティバル」で公演し、その後、毎年声がかかります。県内外での公演活動も積極的に行い、障がい者のメンバーにとって一層大きな自信につながっています。

文化の伝承と自立の一步

「人形劇団いとぐるま」の特徴の一つは、米子弁で語ることです。題材も鳥取に伝わる民話をテーマにしています。といっても、わりあい知らないのが民話なんです。民話も米子弁も、伝えていかないとだんだん薄れていくものです。郷土文化の伝承も、実は目的の一つなんですよ。

障がいのある方たちと長年一緒にやっていて、今も努力していることは、健常者目線ではいけないということです。障がい者が自分の殻を破ろうと頑張っているときは、「こんな方法もあるよ」といくつかの方法を知ってもらって、自分で選択してもらうようにしています。これが自立の一步なんです。そして、私自身も失敗を見せることが大事。こうすると一気に仲間になるんです（笑）。

健常者も障がい者も一緒、それが当たり前の社会になってほしい

私たちは人形劇を通して、障がい者が社会でできているところをたくさんの人に観てもらいたいと思っています。

特に子どもの時に観てもらうのがいいですね。子どものころから障がい者と接していると、例えば、視覚障がい者が点字を使ったり、聴覚障がい者が手話を使ったりするのは当たり前なんだという感覚が自然と養われます。大人になってからだとなかなかそうはいかないですよ。

小学校や公民館へも公演に行きますが、演じた後、子どもたちに人形に触ってもらったり、障がい者と触れ合ったりする場を設けています。障がい者と触れ合って、初めて「違い」に気づきますが、演技と交流によって感動が生まれ、自然と打ち解けていきます。公演後には子どもたちから手紙をもらうこともあるんですよ。

これからも多くの方に感動を与え、障がい者が社会に貢献している姿を見ていただければうれしいですね。「健常者も障がい者も一緒、障がいは『個性』、それが当たり前なんだ」と認め、障がい者も健常者も共に生きる社会を作っていきたいと思っています。



人形はすべて団員の手づくり！米子弁で語ります



観てくれる人の笑顔が活動のエネルギー



大阪での公演も20回を越えました

取材を終えて

障がい者を含む人形劇団は、日本に2つしかないそうです。しかもアマチュアは「人形劇団いとぐるま」だけ。こんなに貴重な団体が30年も活動を続けてこられたのは、小磯さんを始めメンバーの強い想いがあったから。これまで何人もメンバーが自立していき、入れ替わって、現在、障がい者5人、健常者5人で活動中。夢はアメリカ公演。実際にオファーもあったそうです。

お客さんの笑顔と拍手を糧に自立に向けて演じ続ける「人形劇団いとぐるま」。今後の活躍が楽しみです。

問合せ先

米子市心身障害者福祉センター
〒683-0002 米子市皆生新田 2-10-1
TEL (0859) 32-9001 FAX (0859) 35-6577

ただいまボランティアスタッフ募集中!

連絡先 TEL (0859) 29-6155 小磯さんまで

子ども見守り活動「アイラブ西郷」

～ 地域総ぐるみで取り組むパトロール活動とあいさつ運動 ～

西郷地区は、倉吉市内 13 地区の内、6 番目に人口が多い地域です。農業農村地帯でしたが、近年急速に市街地化しています。

以前は、「おはようございます」「おはよう！」「お帰り」「ただいま」、下校途中の子には、「気をつけて帰れよ」「はあ～い」など、あちこちの通学路で元気な声が聞こえていました。

ところが、突然こんな微笑ましい光景が消えたのです。それは、11 年前のことでした。全国各地で下校時の子どもに、悪質ないたずらやいやがらせが頻発。それどころか誘拐・殺人などとてもない事件も発生しました。

片田舎の西郷地区は関係ないと思っていましたが、例外ではなく、悪質な声かけ事件が発生しました。子どもたちは敏感です。全国的な情報と重なって、あいさつをしても返事はなくなり、すれ違う大人を避けるようなしぐさも見られるようになりました。

情けない、淋しい、何とかしなければと、学校や保護者、地域の各種団体（自治公民館協議会、青少年育成協議会、社会福祉協議会、老人クラブ、民生児童委員、交通指導員など）に働きかけたところ、子ども見守り隊を立ち上げようということになりました。

警察から先進的な取り組みの事例を教えてください、まず、不審者にも子どもたちにもよく目立つように「ア

イラブ西郷」と書き込んだ、黄緑色のベストと帽子を新調しました。児童には、全校集会で、この服装の人たちは子ども見守り隊員であることや、「アイラブ西郷」のロゴには、「地域を愛する子どもと大人になろう」という想いがこめられていることを説明し、活動を行うことにしました。

最初は、自治公民館協議会の館長さんと長生会（老人クラブ）の 10 数名でのスタートでしたが、効果はてきめんで、悪質な声掛け事案はなくなり、あいさつも徐々に復活してきました。特に、朝の通学路は明るく賑やかになってきました。

活動賛同者を増やすために、初孫が入学する高齢者に声掛けをしていきました。現在、登録者は 50 名を超え、毎日 20 数名が自主的に活動しています。高齢者には、子どもと触れあうことで、若返ると喜ばれています。中には、この活動こそが生きがいだと言われて、登・下校時に毎日学校まで付き添っておられる方もいます。

これからの課題は、もっと地域のコミュニケーションを図る工夫をして、“向こう三軒両隣”の助け合い精神を復活させることです。11 年間も続いている「アイラブ西郷」活動の精神に自信を持って、今後も頑張っていきたいと思えます。

（寄稿：倉吉市西郷地区公民館 館長 ^{まきの のりひと} 牧野紀史さん）



※通学路の安全のため、グリーンベルトが設置されています。

登・下校時のパトロール活動



全校集会で「アイラブ西郷」の活動を子どもたちに知ってもらいます

活動の目的・方針と活動内容（だれでも参加しやすいように簡単なものとした）

登・下校時の安全確保

あいさつの奨励

道路の環境・美化

- 活動はあくまでも自主的な活動で、当番は決めず都合のつく人が都合のよい時に活動する。（毎日でも、一週間に一度でも）
- 黄緑色の「アイラブ西郷」と書かれたベストと帽子を着用し、児童の登・下校時（時刻は年度初めに明示）に、自分の集落の通学路をパトロールする。
- 積極的にあいさつをする（児童には強制しない）
- 通学路のごみ・空き缶・ビン・ペットボトルなどを拾う。